



はるかぜ図書館だより

つくば国際大学東風高等学校 図書館 2018年10月発行 No.6

みなさん、こんにちは！10月も半ばになり、肌寒く感じる日が増えてきましたね。季節の変わり目は体調を崩しやすいので、体調管理には十分に気を付けましょう。

10月は学校行事がたくさん行われます。歩く会やプラムカップなど、身体を動かす行事が多いので、運動が得意な人は苦手な人をサポートしながら、ケガのないように全員で協力し合って頑張りたいと思います。全員で心をひとつにして、たくさん思い出を作りましょう♪

これから三年生は、受験や就活等でますます忙しい日々が続くと思います。調べ物をしたり勉強をする際は図書館を上手に活用してくださいね。全員が悔いのない進路を迎えることができるように、応援しています！

今月のおすすめ

悪意 著：東野圭吾

人気作家が仕事場で殺された。第一発見者は、その妻と昔からの友人だった。人はなぜ人を殺すのか。逮捕された犯人が決して語らない「動機」とはなんなのか…。東野文学の最高峰。

他者に対して抱く「印象」の恐ろしさについて考えさせられました。例えば同じ言動でも、その人に対する印象が良いか悪いかによって受け取り方は大きく変わってきます。その「印象」を誰かによって悪いほうに操作されてしまったら…。考えるととても恐ろしくなりました。周りの考えや噂話に流されず、常にフラットな目線でいることが、人間関係ではとても重要なことなのだと思えました。

図書の返却について

最近喜ばしいことに図書の貸出しが増えていますが、しかしそれと共に返却の延滞も増えています。

本の貸出期限は2週間です。期限内に読み終わらない場合は、図書館で貸出延長の手続きを行ってください。その際は本と身分証明カードが再度必要になります。

もし本を紛失した場合は弁償してもらおうようになりますので、「借りたけどもう読まないな」という場合は、失くさないように早めに返却するようにしましょう。



神無月と神在月とは？

*旧暦で10月のことを神無月（かなづき）と言います。しかし島根県では10月は神在月（かみありつき）とまったく逆の意味で呼ばれています。それはなぜでしょうか。

*10月は全国の神様たちが、島根県出雲市にある出雲大社へ会議に出かけて行くと考えられています。そのため、神様が出かけてしまう地域では神様がないので『神無』月、反対に神様がたくさんいらっしゃる出雲の国（島根県）は『神在』月と言うのです。一説によると、神無月の『無』を『の』と解釈して『神の月』とする考え方もあるようです。どちらにしても、10月は神々が集まるとも大切な月ということですね。

*年に一度、神様たちが一堂に会してなにを会議しているのか気になりませんか？神様たちは人々の運命やご縁（誰と誰を結婚させようか）を話し合っているのだそうです。意外な人同士が結婚する…なんてことも、この会議の結果なのかもしれませんね（出雲大社は縁結びの総本山でも有名です）
また、神様たちはその他にも、来年の天候や農作物・お酒の出来についても話し合っているそうです。

*全国の神様たちが出雲大社に出かけているということは、それ以外の場所には神様がいなくなってしまうの？と疑問に思った人もいるかもしれません。しかしそうではなく、留守番をしてくれている神様がいるのだそうです。留守神様として代表的なのが恵比寿神（えびすしん）で、留守神様を祭るために、10月に『恵比寿講』を行う地方もあります。多くの神様が不在の時にも必ず近くで私たちのことを見守ってくれているというわけですね。

トリック・オア・トリート！

*「10月といえばハロウィン！」という人は多いんじゃないかなと思います。幼稚園などでお菓子を貰ったという思い出がある人もいるかもしれません。中にはかぼちゃのオバケ『ジャック・オー・ランタン』を飾ったりして、イベントの雰囲気を楽しんでいるというお家もあるでしょう。そんなハロウィンの由来について、みなさんは知っていますか？

*ハロウィンは、キリスト教すべての聖人と殉教者の魂を記念する『万聖節』（11月1日）の前夜祭にあたります。秋の収穫のお祝いと悪霊を追い出すお祭りのことだそうで、古くは古代ケルト民族のお祭りが起源だと言われています。

*ケルト人にとっては11月1日が新年であり、その前日の10月31日は一年の終わる日として考えられていました。年が明けるとも言われていたそうです。しかしそのとき、死者に混じって悪霊や魔物もこの世にやってきて、生きている人間の魂を奪うとされていたため、人々は生きている人間だと気づかれないように仮装をしていたようです。ハロウィンの仮装をする際にミイラやゾンビなどの「生きていない者」の格好をすることが多いのも、そこが所以となっているのかもしれません。